



2005. 3. 25

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-brnk/index.htm>

## 速報 玉川金山遺跡

たまがわかなやまいせき  
玉川金山遺跡は山梨県都留市にあります。市内には東西に桂川が流れ、そこに幾つもの支流が流れ込み、形成された河岸段丘の上にたくさんの遺跡が登録されています。その支流の1つ、戸沢川の北側斜面に本遺跡は位置しています。今回の調査は、都留バイパス建設のために約2000平方メートルを平成16年10月18日から平成17年2月15日まで実施し、縄文時代早期と奈良・平安時代～中近世までの遺構・遺物が発見されました。

調査区は戸沢川の河岸段丘の地形に合わせて川側から1・2・3区と名付けています。1区の調査では、旧河川跡とともに、溝状の落ち込みや石組み遺構が部分的に検出され、古銭や陶磁器類が出土しました。2・3区では縄文時代早期（今から約8000年前）と奈良・平安時代～中・近世の住居跡5軒、土坑が約100基、集石5基、焼土遺構35基が見つっています。特に2区で発見された奈良時代の竪穴住居跡では、竈と煙道が極めて良好な状態が検出されました。竈の焚口部にはしっかり粘土を貼って、お饅頭のように盛り上げ、その真ん中に土器の底を支える石（支脚）も残っていました。煙道は、地面を掘り下げて左右に石を並べ、平たい石をその上に一列にのせた状態で発見されました。3区では縄文時代早期の遺物が黒色土の中からたくさん発見されましたが、土器の種類がまとまっているため、ここでの生活は比較的短期間だったようです。また、二股状に切り合う土坑が数カ所で確認されています。この土坑の底面には焼土が一面に広がっていますので、土坑の中で火を使用したと考えられます。調査が終了したばかりですが、縄文時代早期のまとまった資料で、山梨県内の資料としては貴重なものとなりました。



発見された奈良時代のカマド  
手前が焚口部



玉川金山遺跡全景（南西から）



## ■ 東国最大級の前方後円墳 ■

甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園（東八代郡中道町）内にある<sup>ちょうしづかこふん</sup>銚子塚古墳は、今から約1,600年前の4世紀後葉に造られたと考えられている山梨県内最大の古墳です。全長169mもの規模は東日本でも最大規模であり、昭和5年に国史跡に指定されています。銚子塚古墳からは三角縁神人車馬鏡など豊富な副葬品が発見されており、ヤマト政権と密接な関係があった人物の墓と考えられています。銚子塚古墳は、古墳時代前期の東日本とヤマト政権の関係など当時の社会情勢を考える上で欠くことのできない重要な古墳として全国に知られています。

### 銚子塚古墳の試掘調査速報

本年度、当センターでは銚子塚古墳の史跡整備に伴う試掘調査を行いました。今回の調査ではこれまでにない数々の調査成果が得られていますので、ここで簡単に概要をお伝えしましょう。

#### (1) 古墳北側の周溝規模・形状が判明

後円部北側の周溝が約20m幅、深さ約1m～1.5mと確認され、周溝も前方後円形であることが判明しました。

#### (2) 周溝内に様々な造作の痕跡を確認

後円部北側の周溝底面から「周溝区画堤」と呼ぶ土手状の遺構が確認されました。また、周溝底面には階段状の段差が設けられるなど、これまで東日本の古墳では未確認であった周溝の複雑な構造の一端が見えてきました。

#### (3) 墳丘端部に半円形の「突出部」の存在を確認

後円部北側の墳丘端部に幅約30m、突出長約6mの「突出部」を確認しました。機能は不明ながらも4世紀代の東日本の古墳にこのような遺構があることが確認されたのは初めてのことです。

#### (4) 墳丘端部から「木柱」や「木製品」を発見

後円部北西側の墳丘端部から長さ90cm、直径20cmの加工された「木柱」が立てられたままの状態で見つかりました。この周辺からは円盤状木製品や棒状木製品などの「木製樹物」の部品とも考えられる木製品が集中的に出土しています。また、やや離れた地点からは全国でも最古級に位置づけられる「笠形木製品」も出土しています。これらの出土品は東日本では未だ類例がありませんが、「木製品を伴う祭祀行為」が銚子塚古墳で行われていた可能性を示すものとして注目されています。

今回の調査では、上記以外にも銚子塚古墳の築造時期や構造を知るための多くの手がかりを得ることができました。確認された様々な新発見は、古墳時代の山梨県を考える上で重要なことであることはもとより、全国的な古墳時代研究にも与える影響の大きいことばかりです。今回の調査成果については、これから始まる予定の史跡整備に十分活かすとともに、来年度以降には報告書としてまとめる予定となっています。なお、平成16年度末には、調査の概要をまとめた概要報告書が刊行されますので、どうぞご期待下さい。



確認された「突出部」(西→)



検出された「木柱」(南→)



「木製樹物」の出土状況(北西→)

# 過去からのメッセージ

～全国から見た山梨の位置づけ～

## 山梨県内中世寺院分布調査はじまる

平成16年度から山梨県内中世寺院分布調査がスタートしました。この調査は全県下の中世寺院（推定2500ヶ所）の分布やその性格を調査し、遺跡として中世寺院遺構を保護していく基礎資料を整えるためのものです。今回の調査では、専門家の先生方からのご意見を伺いながら調査を進めるための調査検討委員会（清雲俊元委員長）を設置し、中世寺院に関わる最新の研究成果を調査に活かせるように努めています。また、県内各市町村の教育委員会職員の方々とともに調査を進めるための「共同調査員会議」も設置し、各地域のより細かいデータ収集に努めています。

### 「甲府城の歴史と石工」 甲府城大修築300年記念講演会

平成16年11月21日に県立図書館で開催し、80名を越える多数の参加者がありました（主催：当センター、共催：山梨郷土研究会、協力：山梨県石材連合会）。「県内石造物からみた甲斐石工」坂本美夫、「甲府城の歴史と修築の経緯」八巻與志夫、「平成の大修理と調査」宮里学（以上3名センター）、「甲府城廃城後の歴史」秋山敬氏（郷土研究会）、「現代石工からみた甲斐石工の技術」中村庄二郎氏・深沢芳次氏（石材連合会）の講演とシンポジウムを行いました。



## 発掘体験セミナー



埋蔵文化財センターでは、本年度から一般県民に遺跡の発掘を体験していただく事業「発掘体験セミナー」を行っております。

第1回目は、11月20日（土）に都留市玉川金山遺跡において開催し、4家族13名の方々に参加していただきました。子どもたちは、縄文時代前期の遺物包含層を掘り下げながら、数千年の時を越えて目の前に現れる土器や石器に心を躍らせていました。

第2回目は、12月19日（日）に山梨市の足原田遺跡で開催し、5家族13名の方々に参加していただきました。平安時代の遺物包含層を掘り下げて約1000年前の土器を掘り出し、土器の出土位置の測量なども全員に体験していただきました。

第3回目は、1月22日（土）に中道町にある国指定史跡甲斐銚子塚古墳で行い、合計11名の方々が参加されました。足下が泥だらけの中、小学生の子供たちは、顔や服を泥で汚しながら、測量体験と埴輪の破片を掘り出すことに夢中になっていました。

### 紺綬褒章伝達式 ～平成16年12月23日執り行なわれる～

前埋蔵文化財センター所長・考古博物館長である大塚初重氏は、5467点に及ぶ歴史、考古学に関する図書を博物館に寄付したことにより国から紺綬褒章を授与されました。今では入手できない貴重な資料も多数含まれています。明治大学名誉教授でもある氏の長年の研究人生を物語る極めて重要な資料を御寄贈いただき、誠にありがとうございました。



山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第20号

発行日 2005（平成17）年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

E-mail maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923  
TEL055-266-3016 FAX055-266-3882

印刷 (株) 峡南堂印刷所